

“水俣の魚ではない”

葦北漁協 売行不振に悩み声明

葦北地方も水俣病の影響を受けて最近魚類の売行きが悪くなり、漁協や業者は頭を痛めており、葦北町漁協では十七日「同組合漁業者および仲買人の販売する魚は水俣近海のものでないから安心してたべて下さい。責任をもっておすゝめします」と声明文を出した。

さる十五日出水や米ノ津で猫が奇病にかゝったと報道されてから「町内に水俣病が発生した」「猫が何匹死んだ」など噂さが流れ、魚は危いと敬遠する消費者も多くなつて売行きは減るばかり。これまでに同組合の一日平均売上高約二十万円が二割の減で、とくに近海でとれるボラは昨年の一、二平均水揚げ百八十七・五ポンド(五十貫)だったのが今年は三十七・五ポンド(十貫)

に減っている状態。町内の魚屋も「売上げが半分に減った。このまゝでは倒産する。熊本市から遠洋ものでも仕入れなければ」と苦情を訴えている。

同町漁協でもこのまゝでは水俣市の漁業問題だけでなく、不知

火海業者の死活問題にも波及するのではないかと心配して近く開かれる漁協組合長会でこの対策を協議することになった。